

独立行政法人
宇宙航空研究開発機構(JAXA)の
平成22年度 年度計画について

平成22年4月14日
宇宙航空研究開発機構
理事 小澤秀司

平成22年度年度計画の概要(1/6)

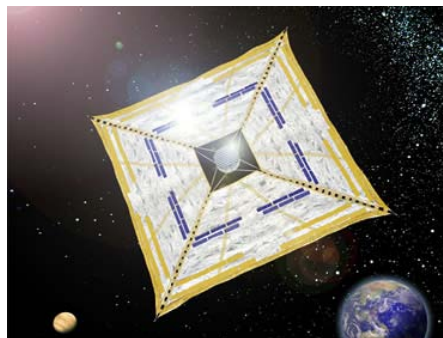
1. はじめに

中期目標、中期計画及び平成22年度予算に従い、平成22年度の年度計画を策定したので、その概要について報告する。

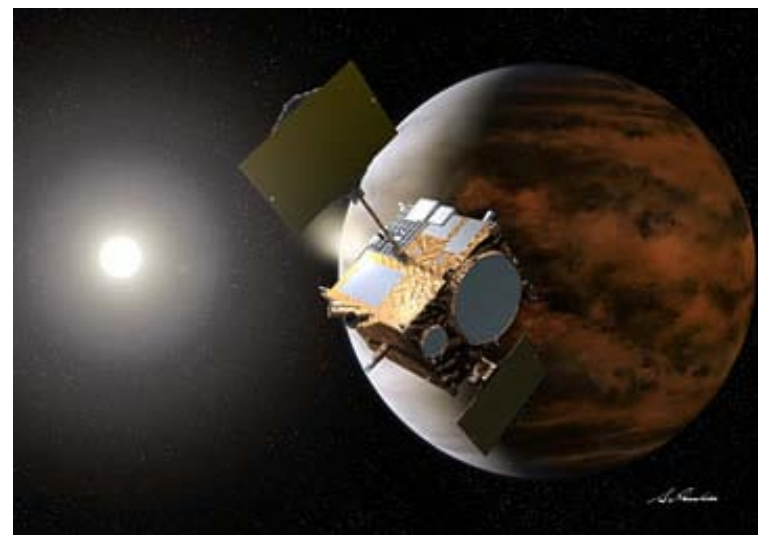
2. 事業の実施計画

(1) H-IIAロケット17号機により、金星探査機「あかつき」(Planet-C)を打ち上げる

- 世界初の本格的惑星大気観測ミッションとして、金星の気象現象を精密観測
- 5月18日打上げ予定。約6ヶ月かけて金星に到着し、金星周回軌道に投入
- 5機の小型副衛星(うちJAXA衛星1機、公募衛星4機)を相乗りで打上げ
- JAXAの副衛星 小型ソーラー電力セイル実証機 (IKAROS)によりソーラーセイル(太陽帆)による加速、薄膜太陽電池による発電等の技術実証を実施



小型ソーラー電力セイル実証機 (IKAROS)



金星探査機「あかつき」

平成22年度年度計画の概要(2/6)

2. 事業の実施計画(続き)

(2) H-IIAロケット18号機により、準天頂衛星初号機「みちびき」を打ち上げる

- 「地理空間情報活用推進基本法」に基づき、衛星測位システムの構築に不可欠な衛星測位技術の高度化を実現
- 山間地、ビル陰等に影響されることなく全国に高精度の測位サービスを提供する準天頂衛星システム計画の第1段階
- GPS補完・補強技術など衛星測位技術に関する技術実証の実施



準天頂衛星「みちびき」

(3) H-IIBロケット2号機により、宇宙ステーション補給機(HTV) 2号機を打ち上げる

- ISS共通システム運用経費の我が国の分担義務に相応する物資及び「きぼう」運用・利用に必要な物資を輸送、補給
- 将来の軌道間輸送や有人システムに関する基盤技術の修得



HTV(写真は技術実証機, NASA提供)



H-IIBロケット

平成22年度年度計画の概要(3/6)

2. 事業の実施計画(続き)

(4) 野口宇宙飛行士のISS長期滞在、山崎宇宙飛行士のシャトル搭乗

【野口飛行士】

- 平成21年12月23日から約5ヶ月半の長期滞在中、6月にソユーズ宇宙船で帰還予定
- 「きぼう」での実験運用、ISSの運用・維持管理に係る作業等を実施中

【山崎飛行士】

- 4月5日、スペースシャトル「ディスカバリー号」により打上げ、4月19日に帰還予定
- 補給物資、実験ラックの運搬等を実施



野口聡一宇宙飛行士
(ISS第22/23次長期滞在)



山崎直子宇宙飛行士
(STS-131(19A)ミッション)

(5) 小惑星探査機「はやぶさ」の帰還とカプセル回収

- 約7年間の飛行・探査を終え、6月に地球帰還
- 分離した再突入カプセルをオーストラリアに着地させ、小惑星「イトカワ」の試料を回収
- 回収後は試料のキュレーション(受入・処理・保管)及び分析を実施



探査機「はやぶさ」と搭載の再突入カプセル

平成22年度年度計画の概要(4/6)

2. 事業の実施計画(続き)

- ◆ 以下の事業について所定の計画に従い研究開発を進める
 - 第1期水循環変動観測衛星(GCOM-W1)
 - 全球降水観測／二周波降水レーダ(GPM/DPR)
 - 雲エアロゾル放射ミッション／雲プロファイリングレーダ(EarthCARE/CPR)
 - 第1期気候変動観測衛星(GCOM-C1)
 - 陸域観測技術衛星2号(ALOS-2)
 - 水星探査計画(Bepi Colombo)
 - X線天文衛星(ASTRO-H)
 - 小型科学衛星シリーズ
 - 固体ロケット(イプシロンロケット)
 - 航空機及び航空エンジンの高度化
- ◆ LNG推進系は、平成21年12月の内閣官房長官、宇宙開発担当大臣、文部科学大臣、経済産業大臣の決定を踏まえ、技術の完成に向けた必要な研究開発(高性能化・高信頼性化など)を推進
- ◆ 電波天文衛星(ASTRO-G)については、技術課題解決の見極め及び開発計画の再評価を実施
- ◆ 産業界・関係機関等との連携・協力、国際協力を一層推進する

平成22年度年度計画の概要(5/6)

3. 業務運営の効率化

◆ 業務の合理化・効率化

- 経費の合理化・効率化

 - 一般管理費の削減及びその他事業費の約3%削減（対19年度比）

- 人件費の合理化・効率化

 - 人件費を5%削減（対17年度比）

◆ 情報技術の活用による業務の効率化、確実化

- プロジェクト支援や業務運営支援のための情報化を推進。

◆ 内部統制・ガバナンスの強化

平成22年度年度計画の概要(6/6)

4. 主な数値目標

	<u>22年度目標</u>	(21年度目標)	(対応する中期計画)
◆ 人材交流	500人	(500人)	年500人
◆ 宇宙教育指導者 (ボランティア)育成	200名	(200名)	5年で計1000名
◆ コズミックカレッジ開催	80回	(80回)	年40回
◆ 共同研究	460件	(440件)	期末に年500件
◆ 技術移転(ライセンス契約)	50件	(50件)	期末に年50件
◆ 施設・設備の供用件数	50件	(50件)	年50件
◆ 査読付論文の発表	350件	(350件)	年350件
◆ ホームページ・アクセス数	月700万件	(月650万件)	期末に月800万件
◆ タウンミーティング	10回	(10回)	5年で計50回
◆ 講演会の実施	400回	(400回)	年400回

注:21年度の各数値目標に対する実績は現在集計中であるが、ほぼ達成できる見通し

(参考)衛星等打上げ計画

(平成22年度予算ベース)

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)
H-IIA	<p>▲ 情報収集衛星 光学3号機 11月28日打上げ成功</p>	<p>▲ 金星探査機「あかつき」 ／小型ソーラー電力セル 実証機(イカロス)</p> <p>▲ 準天頂衛星初号機 「みちびき」</p>	<p>▲ 第1期水循環 変動観測衛星 (GCOM-W1)</p>	<p>▲ 電波天文衛星 (ASTRO-G)</p>
H-IIB	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 技術実証機／ H-II Bロケット試験機 9月11日打上げ成功</p>	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 2号機</p>	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 3号機</p>	<p>▲ 宇宙ステーション 補給機(HTV) 4号機</p>
その他	<p>▲ 宇宙ステーション きぼう船外実験 プラットフォーム (スペースシャトル) 7月16日打上げ成功</p>			

注) ▲は打上げ済み。

23年度以降の計画については、必要な予算措置が講じられるとともに開発が順調に進捗することを前提としており、今後の見直しによって変更がありうる。